

様式第1号

会 議 録

会 議 の 名 称	平成28年度 第3回所沢市立所沢図書館協議会
開 催 日 時	平成29年2月17日(金)午後1時30分~午後3時30分
開 催 場 所	所沢市立所沢図書館 3階集会室
出 席 者 の 氏 名	鈴木 勢津子、宮井 俊充、道又 一枝、笹島 千代子、 風間 俊克、工藤 恭子、及川 道之、植月 恵一郎、 保崎 則雄
欠 席 者 の 氏 名	喜多濃 定人
説 明 者 の 職 ・ 氏 名	
議 題	議 事 事 項 (1)市役所各課との連携サービスについて (2)所沢図書館の広報活動について  報 告 事 項 (1)図書館各計画について (2)その他
会 議 資 料	(1) 会議次第 (2) 所沢市行政組織機構図 (3) 市役所各課との連携サービス (4) 図書館主要統計 (5) 所沢図書館の広報活動について (6) 「所沢市子どもの読書アンケート調査」結果 (7) 復刊 いずみ (8) 今月の図書館2月号 (9) 文化講演会パンフレット (世界はこんなにも美しい・南口シア)

担 当 者 名	教育総務部次長 師岡 林 図書館長 中村 まさみ 主査 坂牧 厚子 主査 多辺田 幸子 主査 小澤 朋子 主査 吉松 政子 主査 倉片 いくみ 主任 小嶋 めぐみ 主任 澤田 孝  担当部署 教育総務部 所沢図書館 電話 2 9 9 5 - 6 3 1 1
---------	---

様式第 2 号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
図書館長	1 開 会 喜多濃委員所用のため欠席。
教育総務部次長	2 あいさつ
会長	<p>協議に先立ち、会議の公開についてだが、規定により原則公開となっている。この会議について公開としてよろしいか。</p> <p>委員了承 (傍聴者入室)</p> <p>会議録署名人は宮井委員、笹島委員とし、記録方法については、要点筆記とすることを確認して協議に入った。</p> <p>配付資料について事務局で確認を行った。</p> <p>3 議事</p> <p>(1) 市役所各課との連携サービスについて</p>
図書館長	<p>図書館では、市役所の関係各課と連携を取り、さまざまなサービスを行っている。前回の会議では、子どもの読書活動に関する連携等の説明をさせていただいた。今回は一般に向けたサービスの連携拡大について、ご意見を伺いたい。現在の連携の状況を、担当から説明させていただく。</p>
主査	<p>市役所各課との連携について、一般奉仕関連の内容について説明をさせていただく。</p> <p>高齢者支援課との連携として、本庁舎 1 階で行われる「介護の日」のイベントへの参加や、高齢者支援課の管轄である高齢者施設等への出張おはなし会を実施している。</p> <p>介護の日のイベントでは、図書館の関連業務についての説明、高齢者や介護に関連する図書や大活字本等を並べ、それらのリストを作成・配布した。</p> <p>また、出張おはなし会は、平成 27 年度は延べ 6 施設、平成 28 年度は、現</p>

	<p>在のところで、延べ5施設で行った。地域包括支援センターを通して、こうした活動についてのPRも行っている。</p> <p>続いて、保健センターとの連携についてであるが、平成25年度に自殺対策強化月間に関連した展示を本館で行った際、保健センターが自殺対策緊急強化基金で購入した69冊の書籍を受け入れた。表紙に購入経緯の説明を貼って装備し、図書館所蔵の精神衛生関連等の本と共に展示し、貸出しも行った。</p> <p>展示期間中(平成25年2月23日~3月31日)の本館入館者数は、約3万1000人で、多くの方の目に触れる展示となった。それ以外にも健康などに関する講座案内等のポスター掲示を行うといった相互協力を実施している。</p> <p>続いて、こども福祉課との連携として、発達障害啓発週間関連のイベントで、発達障害に関する図書リストの配布を行った。図書館本館でも、発達障害に関する図書の展示・リストを配布している。</p> <p>その他、郷土資料を所蔵する生涯学習推進センターふるさと研究エリアとの情報協力、リサイクルふれあい館「もったいない市」へのリサイクル本の提供など実施している。リサイクル本は、老人福祉施設、小学校、幼稚園、保育園、児童館などへも提供している。</p> <p>また、まちづくりセンター等7ヶ所と所沢駅サービスコーナーに返却ポストを設置しており、利用者の利便性の向上を図っている。</p> <p>その他の取り組みとして、図書館から各課に図書館業務について、理解・協力を得るための働きかけを行っている。毎年、全庁に各課が発行した資料・パンフレット等について、図書館に送付してほしい旨の連絡をして、図書館への資料提供をお願いしている。</p> <p>これらの行政資料は、郷土資料として利用者に提供するだけでなく、関連各課においても所沢の歴史や状況を知る貴重な資料となっている。</p> <p>また、行政支援として、レファレンスサービスによる情報の提供、データベース調査による新聞記事の提供などを行っている。データベースが図書館を通して活用できることを全庁的に周知することを目的とし、他部署の職員への研修も実施した。</p>
会長	市役所各課との連携サービスについて、質問、意見など伺いたい。
委員	説明資料が文字での説明だったが、どこの課と連携しているかが図で表せると、もっと分かりやすくなるのではないか。
会長	まちづくりセンターとの連携についてはどうなのか。
図書館長	分館が地域連携ということで、まちづくりセンターと関わっている。本館のエリアでは、並木まちづくりセンターが該当するが、今後こちらから何かしらの働きかけを行なっていきたいと考えている。

委員	<p>図書館の行事・展示等と各地域だけではなく、市内で開催するイベントを市民全体に知らせる機会は設けているのか。住んでいる地域以外で行われている行事等がわかれば、そこに行ってみいたいという人がいるのではないか。</p>
図書館長	<p>市内全体への広報ということになると、「広報ところざわ」や生涯学習推進センターの「翔びたつひろば」になる。図書館独自では広報していない。</p>
会長	<p>どこの分館で何の展示が行われているかがわかれば、それに興味を持った人が他の分館に行くこともあるのではないか。各分館だけで広報するのではなく、市全体の広報とタイアップしていけば、それを見て図書館に来る人も増えるのではないか。</p>
委員	<p>あるテーマを決め、各分館が繋がるような特集を組めば、他の分館にも足を運ぶようになるのではないか。</p>
図書館長	<p>参考にさせていただく。</p>
委員	<p>他課が主催するイベントのスペースを借りて展示するだけでなく、その担当課の職員にも本を活用してもらえないようにならないと、対象とする市民の利用ニーズについて考えた時に認識の差が出てきてしまうのではないだろうか。</p> <p>また、介護の日に本庁で配布したリストを見て、実際に図書館を利用した人数をこの事業として把握しているのか。</p>
図書館長	<p>数値として把握するのは難しく、今後の課題となっているが、リストを見て来館されたという方もいる。</p>
委員	<p>チラシを作成して配布するだけでなく、それが何枚配布できたのか確認するなど、成果として把握することも必要だと思う。</p> <p>また、障害福祉課との連携はしていないようだが、自ら図書館へ出向くことのできない方に対してのサービスも、支援している課と連携して行っていかなければいけないと感じる。</p> <p>他にも、転入手続き時に、図書館の案内を担当課と連携して行ってはどうか。</p>
委員	<p>指定管理者制度を導入し、分館のサービスが向上して利用がしやすくなったと感じている。小学校での読み聞かせ等も非常に充実している。中学校はなかなか連携が図れなかったが、分館と連携して、中学校の図書室に分館のコーナーを設置した。まだ始めたばかりの取り組みであるが、よい連携が取れていく</p>

委員	<p>のではないかと感じている。</p> <p>次に、市役所各課との連携についてであるが、連携している各課でも実施している行事を知っているのは、一部の担当だけであって、ほとんどの人は何が行われているか知らないのが現状である。例えば、図書館のホームページで、連携している課の情報が簡単に取り出せるようなシステムを作るなどして、多くの人が情報を共有できるようにしてはどうか。</p> <p>子どもはさらに、情報を得ることが難しい。長期的に見ての話だが、学校図書館と市立図書館とを結ぶネットワークなどが構築できれば、図書館に興味をもつ子どもも増えるのではないか。</p> <p>出張おはなし会を行っているということだが、高齢者施設に行っても誰も知らないようだった。例えば、施設の職員にチラシを配ってもらう等の連携を図っていけばよいのではないか。</p> <p>(2) 所沢図書館の広報活動について</p>
図書館長	<p>図書館では、さまざまなサービスを実施しているが、なかなか市民の方に浸透していない。効果があると思い広報活動を行っているが、委員の方が活動している場からの視点において、このようにしたらもっと効果的に伝わるのではないかなど、ご意見を伺いたい。サービスの現状と広報活動について、担当者から説明させていただく。</p>
主査	<p>図書館の利用状況であるが、所沢図書館主要統計の貸出数と貸出利用者数の推移をみると、平成23年から平成24年にかけては、指定管理者制度を分館に導入した効果があり、貸出数は、1,639,133点から1,770,886点まで増加、貸出利用者数についても、544,639人から598,969人まで増加している。</p> <p>ところが、その後は横ばいあるいは減少傾向にある。平成26年から平成27年にかけて、貸出数は1,732,637点から1,725,659点となり、貸出利用者数も600,199人から593,789人となっている。</p> <p>このような状況を踏まえ、利用者数を増やす努力をしているところである。その中で、図書館として今必要なのは広報活動だと考えている。</p> <p>現在行っている広報活動について説明させていただく。</p> <p>図書館が発行している主な広報紙は「いずみ」「今月の図書館」「ほんのりトベア」である。</p> <p>「いずみ」は、発行頻度年3回、対象は一般である。内容は、市内在住作家のエッセイ、文学講座講演録、イベント報告、事業紹介などである。紙面の内</p>

容は変わることもある。

「今月の図書館」は、発行頻度月1回、対象はすべての利用者である。内容は、休開館日のお知らせ、催し物や図書館からのお知らせ、新刊案内等である。

「ほんのりのトベア」は、発行頻度月1回、対象は小学生以下の子どもである。内容は子ども向け行事予定、季節のおすすめ本、新刊紹介、季節にちなんだクイズなどである。

この他にも、1か月の子ども向け行事予定を「図書館からのお知らせ」というチラシにして毎月作成している。同内容のポスターを近隣小学校・近隣保育園に配布しており、航空記念公園内の掲示板にも掲示している。季節ごとに特別行事も開催しているので、その都度チラシ・ポスターを作成し近隣施設へ配布している。

また、生涯学習推進センターが編集・発行をしている「翔びたつひろば」に掲載されている「図書館だより」には、スペースは少ないが、講演会のお知らせなど重要な情報を掲載している。記事によっては、「広報ところざわ」に掲載されることもある。

続いて、所沢図書館のホームページについて説明させていただく。

市のホームページとは独立しており、「図書館からのお知らせ」等図書館全般について掲載している。レファレンス事例集やコラムなどの読み物も充実している。また、印刷や締切等の関係で広報紙に掲載しきれなかった情報もリアルタイムで掲載している。

また、市役所広報課が配信している登録制の市政情報メール「ところざわほっとメール」では、18のカテゴリの中から「図書館からのお知らせ」を選択すると、休館日やイベント等の情報がメールで届くようになっている。

続いて、他課との連携について説明させていただく。

市の各部署と連携することによって、図書館を利用していない人にも情報が届くというメリットがあり、未来の利用者の獲得にもつながると考えている。

まず、SNSの活用では、広報課が市内のイベント・出来事・催し物等を発信しているFacebookに図書館の情報を掲載している。Facebookは、幅広い年齢層の方が利用しているため、より多くの方に情報が伝わるというメリットがある。

次に、所沢市ロケーションサービスの活用について説明させていただく。連携先は商業観光課である。ロケーションサービスは、市内でのテレビや映画の撮影の誘致・協力・支援を行う事業であるが、平成28年4月26日に「NHKあさイチ!」という情報番組の「図書館活用術」という特集で、所沢図書館でレファレンスの様子が撮影に使用された。また、所沢図書館本館の建物は、警視庁本庁や最高裁判所などを設計した設計士によるもので、雰囲気のある建物の図書館ということで、ドラマ撮影にも使用されている実績がある。

	<p>他にも、交通安全課と連携して、ところバスの車内に広告やとしょかんまつのポスター等の掲示、記者クラブへの情報提供なども行っている。</p> <p>最後に、「広報ところざわ」の特集へのアプローチについてであるが、平成19年3月号に「図書館へ行こう」という特集を掲載した。10年が経過し、図書館をとりまく状況も変化しており、図書館も進化している。新たな切り口で、「広報ところざわ」に特集記事が組めればよいと考えている。</p>
会長	<p>広報について意見などをお願いしたい。</p>
図書館長	<p>図書館では、いろいろな媒体を使って広報に取り組んではいるが、それぞれの年代へのアプローチについて反響が得られないところがあるので、委員皆様の各年代の意見としてもいただければと思う。</p>
委員	<p>現在の広報は、ほとんど紙媒体である。子どもたちには、紙よりもDVDなど視覚に訴えたほうが有効ではないか。10分程度の本の紹介のDVDなどがあるとよい。</p> <p>また、病院や市役所の待ち時間を利用して、PRのDVDを流したり、そこに自由に読める本を置くなどすれば、続きを読みたい方が図書館で本を借りようと、足を運ぶことにつながるのではないか。</p> <p>それから、滑川町では、子ども全員に読書通帳を配布している。図書館に行くときシールがもらえたりする仕組みになっていて、子どもが図書館に足を運ぶきっかけを作っている。そういった自治体もあるので導入したらどうか。</p>
主査	<p>所沢市でも全員にではないが、読書手帳の配布を行っている。学校には、図書館のホームページからダウンロードして使用できる旨通知している。</p>
委員	<p>読んだ本の記録のためだけではなくて、ポイント制にして貯めたポイントをグッズなどと交換できるというのもよいのではないか。</p>
委員	<p>市民文化フェアで図書館のPRはしているのか。</p>
図書館長	<p>市民文化フェアではしていない。</p>
委員	<p>幅広い年齢層の方が多く来ているイベントなので、何かPRしたほうがよいのではないか。</p>
図書館長	<p>参考にさせていただく。</p>

会長	平成19年に「広報ところざわ」で特集記事を掲載しているとのことだが、毎月図書館について掲載してもらうことはできないのか。
図書館長	「広報ところざわ」と生涯学習推進センターで発行している「翔びたつひろば」は、原則同じ記事を掲載していない。図書館では「翔びたつひろば」への掲載が主となっているため、「広報ところざわ」には何かの機会がないと載せていない状況である。
会長	<p>利用者数が横ばいという説明だったが、私は横ばいでよいと思う。横ばいということは、図書館を必要とする層が確実にいるということである。</p> <p>ただ、図書館の利用者を増やすという観点から見ると、現在作成している広報紙では図書館を利用する方や図書館に関心がある方は手に取ってくれると思うが、そうでない人は手に取ることはないのではないか。この広報紙をきっかけに図書館に足を運んでもらうのは難しいことだと思う。</p> <p>むしろ、ドラマの舞台に使われたとか、建物自体が意味のある建築だというようなことをアピールすれば、普段図書館に足を運ばない人でも興味をもつのではないか。それをきっかけに本を借りていただければ利用者数は増えるのではないか。</p> <p>また、年代で考えた場合、高齢の方に対してインターネットやSNSでアピールするのは厳しい。</p> <p>図書館に足を運ばない人にどうやって来てもらうかは、例えば、ドラマに使われたとか、建物についてなどを切り口にしても構わないと思うので、今までと違う発想で考えていかなければならないのではないか。</p>
図書館長	利用者数の件については、まったくの横ばいというわけでもなく、工事休館などがあると少しずつ減になり、戻ってこない利用者もいる。足を運ぼうという気にさせるものが必要だと感じている。今のご提案は参考にさせていただきたい。
会長	書籍の売り上げ自体が減っているのだから、図書館だけ利用者を増やすというのは難しいことだと思う。
委員	<p>高齢者は紙媒体、若い層はデジタルでといのように、ターゲットを分けてアプローチしないとだめなのではないか。</p> <p>高齢者は、図書館に足を運んで実際に本を手にとってみる人が多いと思うので、その層はいままでの広報の方法でよいと思う。</p> <p>しかし、若者はスマホで情報を得る人が多いため、図書館に足を運ばない。</p>

<p>委員</p>	<p>だから、そこをターゲットに広報すれば利用者数は増えるのではないか。</p> <p>アンケートを取る場合も、性別、年齢層、使っているメディア、職種、なども記入してもらい、それに応じた広報を展開していくべきである。</p> <p>広報紙を見るとは活字ばかりである。これでは内容がいくら良くても、じっくり読む人は少ないのではないか。字を少なくし、写真やグラフなどを入れて読みやすくするなど、読んでもらうための工夫が必要である。</p> <p>また、中学校では、現在、朝読書を行っているのだが、思っている以上に読書が好きな生徒が多い。</p> <p>しかし、中学校には限られた本しかない。スマホを所有している生徒は8割近くいるので、例えば図書館のサイトにアクセスするQRコードがついたチラシなどを配り、子どもたちが興味を持ちそうなサイトを作成すれば、それをきっかけに図書館を利用したいと思う生徒も増えると思う。中学生は図書館に行く時間がないので、そこをうまく繋がれば利用率は上がるのではないか。</p>
<p>会長</p>	<p>たくさんの意見が出たが、図書館としてはどうか。</p>
<p>図書館長</p>	<p>イベントへの参加についてのご提案、アプローチは年齢層で分けて考えるということなど大変参考になった。今後の図書館運営の参考にさせていただきたい。</p> <p>4、報告事項</p> <p>(1) 図書館各計画について</p>
<p>主査</p>	<p>図書館ビジョンについて、説明させていただく。</p> <p>「所沢市図書館ビジョン」は、質の高い図書館であり続けるために、今後の「あるべき姿」や方向性を明確に示すとともに、その実現に向けた施策を進めるための指針として、平成25年3月に策定された。</p> <p>このビジョンの計画期間は、平成25年度から平成30年度までの6年間であり、平成31年3月を以って終了となっている。</p> <p>所沢図書館の更なるサービス向上を図るため、これまでの経緯・成果を踏まえ、新たに「第2次所沢市図書館ビジョン」の策定に向け事務を進めていく。</p> <p>策定のスケジュールとしては、第1期ビジョンの振り返りを目的とした市民アンケート調査をするにあたり、平成29年秋、この協議会にてアンケート内容の協議をお願いする。アンケート調査の実施後、集計をし、平成30年2月の当協議会にて報告の予定である。</p>

<p>図書館長</p>	<p>その後、平成30年3月にはビジョン素案の検討に入り、夏あたりまでにはビジョンの案を作成し、協議会の中でも2回ほど協議を重ねていただき、平成31年2月には最終案をまとめ、3月には策定をすることとなる。</p> <p>ここで、図書館の各計画をあげさせていただいたのは、平成30年度をもって、図書館の主要計画2つが終了することになり、平成31年度から図書館ビジョン、「所沢市子どもの読書活動推進計画」が新たにスタートすることになる。そのための準備を来年度から始めることになるため、ここでスケジュール概要を説明させていただいている。</p>
<p>主査</p>	<p>子ども読書活動推進計画について、説明させていただく。</p> <p>所沢市においては、平成21年3月に「所沢市子どもの読書活動推進計画」を策定し、現在は、平成26年3月に策定した「第2次所沢市子どもの読書活動推進計画」に基づいて子どもの読書活動に関するさまざまな事業を推進しているところである。</p> <p>平成30年度が同計画の最終年度に当たることから、これまでの取組を受け、さらなる子どもの読書活動の推進を図るため、平成31年度から35年度までを計画期間とする「第3次所沢市子どもの読書活動推進計画」の策定に向けた準備を進める予定である。</p> <p>計画策定の体制については、市立小中学校の代表、市内特別支援学校の代表および関係各課の職員で構成する策定委員会を組織し、策定作業に当たる。</p> <p>なお、計画の策定に当たっては、図書館協議会、政策会議、教育委員会などにも随時進捗状況を報告し、ご意見をいただくとともに、パブリックコメントを実施して広く市民からの意見を募り、様々な立場の皆様の声を反映するよう努める。</p> <p>具体的な策定スケジュールについては、平成30年3月までに第2次計画期間の振り返りおよび総括をするとともに、第3次計画策定に向けた情報収集を行う。平成30年4月に策定委員会を立ち上げ、4回の会議を重ねた上で、9月の図書館協議会で素案に対してのご意見を伺いたいと考えている。その後、10月に「所沢市子どもの読書アンケート調査」を実施し、11月にパブリックコメントを実施する予定である。皆様から頂いたご意見をもとに策定委員会で議論を重ね、2月の図書館協議会で再度ご意見を伺って最終案をまとめ、平成31年3月の完成を目指している。</p> <p>(2) その他</p>
<p>主査</p>	<p>平成29年度図書館協議会のスケジュールについて</p>

来年度は4回の開催予定となっており、第1回は指定管理者の概要説明とモニタリングを予定している。平成29年4月から2期目の指定管理者による図書館分館管理が始まる。1期目と指定管理者は同じであるが、5年間の運営管理の実績を今後どのように業務に反映させていくか等、業務の担当者が概要説明をし、委員の皆様には、実際に本館や分館でのモニタリングをお願いする予定である。

これは、指定管理者が管理する分館の業務水準が維持されているかを評価していただくものである。委員皆様それぞれの立場からの評価の結果により、実施状況が適切であるか確認し、必要に応じて指導を行なうこととなる。

第2回の協議会では、リスク対応マニュアルについてのご意見を伺いたいと考えている。

第3回は、市民アンケート調査について協議いただき、第4回は、市民アンケート集計結果・第1次図書館ビジョンに基づく結果報告をさせていただく。

#### 図書館主催事業について

一般奉仕グループでは、2月25日(土)「世界はこんなにも美しい 子どもの本と生きる力」(講師:津田塾大学 早川敦子氏)、平成29年3月4日(土)「南ロシア A・チャーホフとM・ショーロホフ生誕の地に行く」(講師:ジャーナリスト 鴨川和子氏)の講演会を開催する予定。

児童奉仕グループでは、2月26日(日)に「ひなまつりおはなし会」を行う予定。季節のおはなし会は、絵本の読み聞かせや昔話の語りなど毎週開催している定例のおはなし会の内容のほかに、歌やパネルシアター、工作などをプログラムに入れたスペシャルな会となっている。

また、3月28日(火)には、わらべうた講座「育児にわらべうたを」(講師:わらべ唄保育研究会 小林衛己子氏)を開催予定である。

4月23日から5月12日までの「こどもの読書週間」では、図書館各館でスペシャルおはなし会をはじめとする様々な子ども向け行事を予定している。

#### 所沢市子どもの読書アンケート調査結果について

所沢市では、昨年11月に市内の全小学校の2年生、5年生及びその保護者と、全中学校の2年生を対象に、各学校1クラスずつ選出して「子どもの読書アンケート調査」を実施した。資料1枚目には、調査時期、対象と回答数が記載されている。

2枚目は、計画の成果目標と経過、現在の目標達成率を表にしている。

「本を読まない子ども0を目指します!」については、全小中学校で朝読書を実施していることから、昨年度同様に今年度も0%となり、目標を達成する

主査

主査

	<p>ことができた。</p> <p>「子どもの読書量を増やします！」では、昨年度と比較して小学5年生の数値が上がっている。小学2年生は昨年とほぼ同じだが、中学2年生では昨年度の数値より下がっている。目標達成率は小学5年が88.3%と高く、中学2年生75.0%と低くなっている。</p> <p>「学校図書館を利用する子どもを増やします！」では、どの学年も数値が上がり、特に小学2年生が昨年度より増えて目標達成率103.7%となった。</p> <p>「市立図書館の子どもの本を増やします！」では、計画的な資料の購入と蔵書管理により増えている。</p> <p>この調査結果を更に分析・活用し、学校図書館主任や、関係各課と情報を共有化して共通理解を図り、子どもの読書活動の推進に役立てていきたい。</p>
会長	<p>以上について、意見・質問はあるか。</p>
委員	<p>小学校の図書ボランティアについては知っているか。</p>
主査	<p>把握している。図書ボランティアの方も図書館に選書に来館される。こども室では、ボランティアの方が本を選びやすいように、読み聞かせに向く絵本のコーナーを設置し案内している。今年度は、並木小学校の読み聞かせボランティアの方が、読み聞かせについての講座を開催してほしいということで、学校に出向き、絵本の選び方や読み聞かせの仕方のレクチャーを行った。</p>
会長	<p>以上で議事は終了する。</p>
副会長	<p>5、閉会</p>
副会長	<p>図書館の広報紙を配布しているのは、主に公共機関である。用事がなければ公共機関に出向く人は少ない。多くの人が入り出る場所に置き、誰でも手に取れるようにしてみてもどうか。</p> <p>今日は、どのように図書館の利用者数を増やすか、様々な意見が出たのでこれを参考に検討してほしい。</p> <p>以上で会議を終了する。</p>